

自治大卒業生の声

自治大学校卒業生（第2部課程第206期）

座間市 若井 勝行

編集者注：本稿は、自治大学校における研修の特長などについて、自治大学校の卒業生が記したものです。

1. はじめに

自治大学校第2部課程第206期を卒業し、約1ヶ月半が経ち、これから自治大学校の入寮を考える方の参考になればと、当時を振り返りながら執筆します。

昨年夏のとある金曜日、突然、私の上司である課長に人事担当課長が呼んでいるから話をしてくるように言われ、人事担当課長の下に向かいました。そこで、自治大学校で3ヶ月間研修を受けてきて欲しいと言われました。座間市では毎年1名が自治大学校の第2部課程を受講していることは知っていましたが、私に声がかかるとは思ってもいませんでしたので、即答ができませんでした。人事担当課長からは、週末に家族と相談してきて欲しいこと、自治大学校の寮に入寮すること、入寮しても週末は自宅に戻ることを言われました。

その日の夜、すぐに妻に相談し、妻から「選ばれたということでしょう。毎週でなくても、時々週末に戻ってきてくれれば家庭は大丈夫」と言ってもらい、週明けの月曜日に上司の課長にも自治大学校で勉強してきたいと相談すると快く了承を得られたので、自治大学校に入寮することを決めることができました。

2. 入寮まで

自治大学校に入寮することを決めたものの、毎日、自分は授業に付いていくことができるのか不安でした。入寮する1カ月前に、事前課題として事例演習のテキストとeラーニングが届きました。

eラーニングは、憲法、民法、地方公務員法など法律の勉強で、私はこれまで法律に関する研修を受講したことがなく、時間をかけて勉強することがあまりなかったので、再確認する機会となりとても良かったのですが研修時間が約50時間あり、入寮直前までeラーニングを受講していました。

事前演習のテキストは、様々な地方公共団体が抱える課題について先進自治体の取組をまとめられたものが書かれており、それについて所属する自治体の取組等を調べるものでした。私は、公共交通の課題と公民連携による社会課題を調べることになり、どちらも担当したことがない業務であったため、担当課の職員にヒアリングしながら進めました。座間市は、事例演習テキストに挙げられている自治体とは状況が異なっていました。課題に対する取り組み方など、とても参考になりました。

3. 自治大学校では

第206期は70名ということで、寮は3階から5階までの3フロアに別れての生活となり、私は5階(24名)になりました。

(1) 研修生自治会

自治大学校では、研修成果の向上と共同生活の充実を図ることを目的とした研修生自治会を結成することになっていました。この、研修生自治会の役員12名を決める際も、積極的に手を挙げる人が多く、物事を積極的に取り組む人が集まっているように感じました。第206期は入寮期間中、研修生自治会役員が中心となり、研修生全員によるフロア対抗の綱引き大会や入寮・卒業パーティが行われ、第206期の親睦が深まり、同期の絆が深まった気がします。

（２）講義・演習

私は、前半が第２部課程として、将来の幹部候補生として必要な政策形成能力や行政経営能力を身につけるための講義・演習、後半が法制集中研修として、憲法・民法・地方公務員法といった法律が中心の講義でした。

前半、後半共に幹部候補生として身につけるべき講義ということもあり、各専門分野の第一人者である講師が、実際の現状であったり、各自治体での取組事例を挙げながら、私たち自治体職員が政策を立案する際のポイント（課題に対しての分析や取組方法など）を学びました。正直、全ての講義内容を身につけることはできません。しかし、各講義で印象に残ったことをメモすることで、今後簡単に振り返ることができるようになり、自治体大学の講義テキストや資料が今後担当する業務の課題解決に役立つヒントを得るための有益な資料となりました。

自治体大学では様々な演習があり、問題発見・課題解決能力やプレゼンテーション能力等を身につけることができます。座間市では自治体大学で研修を受講した職員は翌年度の新規採用職員研修の講師を担当することになっていますので、模擬講義演習等で教わった人に伝える際のテクニックを実行してみようと思っています。そして、第２部課程のメイン演習である政策立案演習では、入学式の翌日に５～６名のグループに分けられ政策立案するテーマを決めるところからスタートしました。ほぼ初対面のメンバーが集まり、各メンバーの特性や自分は何ができるかを考え、自然と司会をする人、書記をする人などグループ全員で進めることができました。政策立案演習は、授業時間だけでは絶対に終わらず、それぞれ平日の夜であったり、土日曜日も作業することがあり大変に思うこともありました。発表を終えた時の爽快感は今でも忘れられません。また、発表会では各グループの立案

内容を聞きながら、講義では得ることができない発想を得ることができ、今後機会があったら座間市に提案してみたいと思うものも多くありました。

（３）寮生活

各階フロアの談話室は研修生の憩いの場であり、情報交換の場でした。全国から届く銘酒、名産品を嗜みながら、趣味の話や講義のこと、各自治体の取組などをほぼ毎晩話していました。また、休日は普段体験しないことを体験しようと、様々な場所に出向き思い出をたくさん作りました。

４．おわりに

私は、研修期間中、普段の業務の中ではなかなか触れることのない知識や情報をたくさん得ることができました。また、４０歳代にして、卒業後に別れを惜しみ涙を流しながら、再会すること誓いハグをする仲間をたくさん得ることができました。

これから自治体大学の研修を考えている皆さん、家族を離れて数か月の寮生活とはなりますが、多くの仲間と様々な体験ができ、色々な知識とたくさんの情報を得ることができます。所属自治体の職員全員にチャンスがあるわけではないと思いますので、チャンスをもらえるのであれば是非ものにしてください。また、各自治体の人事担当課の皆さん、毎年の予算編成が厳しくなり、年々業務量が増え、人手が不足している自治体が多いとは思いますが、各自治体が可能な限りチャンスの提供とバックアップをしていただくと自治体大学での研修がより良いものになると思います。



▲綱引き大会後の５階フロア全員写真